

県立高校再編の実施計画

平成30年12月11日

富山県総合教育会議

目 次

I 4件の再編統合

1 趣旨	1
2 対象校	1
3 実施年度	1
4 実施手順	2
5 今後の検討の進め方	2
6 県立高校として使用しなくなる学校の跡地利用	2

II 新高校の概要

1 泊高校と入善高校による新高校	3
2 水橋高校と富山北部高校による新高校	4
3 高岡西高校と高岡高校による新高校	5
4 南砺福光高校と南砺福野高校による新高校	7

<参考> これまでの検討経緯	9
----------------	---

県立高校再編の実施計画

県立高校再編の実施計画（以下「実施計画」という。）については、平成30年2月に定めた県立高校再編の実施方針に基づき、県教育委員会事務局内に設置したプロジェクトチームにおいて、新高校の設置場所や学校規模、学科構成、教育内容、魅力ある学校づくりのための仕組み等について、具体的に検討を進めてきた。

その検討結果を踏まえ、同年7月に、総合教育会議において検討・協議を重ね、「県立高校再編の実施計画（素案）」を取りまとめた。

その後、この素案について意見募集や地域説明会を実施し、再編統合の対象となる高校の地域や関係者をはじめ、広く県民の意見をお聞きしながら、さらに検討を進め、以下のとおり実施計画を取りまとめた。

I 4件の再編統合

1 趣旨

県立高校の再編統合は、中学校卒業予定者数が平成30年度には1万人を割り、ピーク時の昭和63年度に約2万人であった卒業生の半数に減少し、さらに平成34年度には9千人を割り込むなど大幅な減少が見込まれる中、引き続き、中学生に幅広い選択肢を確保し、本県の高校教育を充実するため、進めるものである。

新高校の学科構成や教育内容等については、再編統合の対象となる学校の歴史や伝統、これまで果たしてきた役割、地域のニーズ等を踏まえ、また、特色ある学科やコース、部活動を引き継ぐ方向で検討を進め、定めたものである。

2 対象校

現在の全日制県立高校38校のうち8校を再編統合し、新高校4校を設置する。

再編統合の組合せは、「泊高校と入善高校」、「水橋高校と富山北部高校」、「高岡西高校と高岡高校」、「南砺福光高校と南砺福野高校」の4件とする。

3 実施年度

4件の再編統合については、平成32年度に新高校を開設するものとし、平成32年4月に新入生の受入れができるようにする。

4 実施手順

再編統合にあたっては、対象校の募集を停止すると同時に新高校の募集を行い、新入生の受入れを開始するという手順を進めるものとする。

なお、対象校の在校生については、入学時における教育課程の履修を原則とすることから、卒業まで入学した学校の校舎等において学習する。

この間、対象校においては、在校生の学習希望や進路希望等に適切に対応できるよう、対象校が合同で教育活動を実施するなど、学校や生徒・保護者の意向、地理的条件、教育内容、指導体制、施設・設備の状況等に応じた適切な措置を講じるものとする。

また、教員配置については、前期再編では、再編統合の対象校で学ぶ生徒が卒業するまでの間、充実した学びの機会が保証されるよう追加配置していることを踏まえ、今回の高校再編においても、適切に対応していくものとする。

5 今後の検討の進め方

今後、平成 32 年度に、新入生を受け入れることができるよう、新高校の教育目標やカリキュラム、入学者選抜方法、学校の名称、校歌・校章などについて、再編統合の対象となる学校の歴史や伝統等を踏まえ、学校関係者の意見をお聞きしながら、より具体的な検討を進めることとする。

なお、新高校における施設・設備等に関しては、各学校の学科構成や教育内容等を踏まえ、学習環境の充実を図り、新高校が魅力あるものとなるよう、必要な施設・設備の整備等について、段階的・計画的に検討を進めるものとする。

6 県立高校として使用しなくなる学校の跡地利用

県立高校として使用しなくなる学校の跡地利用については、地域のニーズや住民の声、地方創生の観点等を勘案し、地元の市町村の意向を十分考慮しながら、今後、検討・協議することとする。



II 新高校の概要

1 泊高校と入善高校による新高校

(1) 設置場所

新高校については、入善高校の校舎等を活用して設置するものとする。

(2) 学校規模

新高校開設時の学校規模については、新たなコース、設置場所における現在の施設・設備の規模などの状況等を総合的に勘案し、1学年5学級とする。

(3) 学科構成

学科構成については、「普通科」、「農業科」の2学科を設置し、各学科の学級数については、次のとおりとする。

また、「普通科」には、自然科学コース、観光ビジネスコースを設置する。

普通科	農業科
4学級 (160)	1学級 (30)

()内は募集定員数
[以下同じ]

※2年次から、自然科学コース(40)、観光ビジネスコース(40)を開設

(4) 各学科の主な教育内容

各学科の主な教育内容は次のとおりとする。

学 科	主な教育内容
普 通 科	国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語など、幅広い分野の普通教科に関する教育を行う。 2年次から、文系、理系、自然科学、観光ビジネスのコースに分かれ、生徒の興味・関心、進路希望に応じ、必要な科目を選択する。
農 業 科	農業に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、農産物の生産、流通、経済など、農業に関する知識や技術の習得を目指す。

(5) 魅力ある学校づくりのための仕組み

- ① 生徒の進路希望や興味・関心などに応じて、普通科の生徒が農業科の専門科目を学習し、農業科の生徒が普通科の科目を学習することができる仕組み(総合選択制)を導入し、生徒の多様な学習ニーズに対応できるようにする。
- ② 普通科では、下新川地域等をフィールドワークの対象エリアとし、「地域」を素材とした体験型学習活動に取り組む。

- ③ 自然科学コースでは、下新川地域等でのフィールドワークなどの体験学習を多く取り入れ、興味・関心を高めながら研究心を高め、科学的なテーマの課題研究に取り組む。
- ④ 観光ビジネスコースでは、人に伝えるコミュニケーション能力や情報発信能力を身につけるため、下新川地域等の自然や文化など観光資源について理解を深め、地域の魅力を発見し、情報発信する学習活動に取り組む。
- ⑤ 農業科では、地域に根ざした農業教育を充実させるために、地域農家と協力し、教育と職業訓練を同時に進めるデュアルシステム型の長期委託実習に取り組む。
- ⑥ 特色ある部活動として、アーチェリー部、柔道部、陸上競技部などを設置する。

2 水橋高校と富山北部高校による新高校

(1) 設置場所

新高校については、富山北部高校の校舎等を活用して設置するものとする。

(2) 学校規模

新高校開設時の学校規模については、新たなコース、設置場所における現在の施設・設備の規模などの状況等を総合的に勘案し、1学年6学級とする。

(3) 学科構成

学科構成については、「普通科」、「くすり・バイオ科」、「情報デザイン科」の3学科を設置し、各学科の学級数については、次のとおりとする。

また、「普通科」には、体育コースを設置する。

普通科	くすり・バイオ科	情報デザイン科
3学級 (120)	2学級 (80)	1学級 (40)

※1年次から、体育コース(40)を開設

(4) 各学科の主な教育内容

各学科の主な教育内容は次のとおりとする。

学 科	主な教育内容
普 通 科	<p>国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語など、幅広い分野の普通教科に関する教育を行う。</p> <p>1年次から、体育コースを開設する。</p> <p>2年次から、体育コース以外の生徒は文系、理系のコースに分かれ、生徒の興味・関心、進路希望に応じ、必要な科目を選択する。</p>

学 科	主な教育内容
くすり・バイオ科	工業に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、薬業やバイオなどに関する知識や技能の習得を目指す。
情報デザイン科	商業に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、商業及びデザインの各分野に関する知識と技術の習得を目指す。

(5) 魅力ある学校づくりのための仕組み

- ① 生徒の進路希望や興味・関心などに応じて、普通科の生徒が職業系の専門科目を学習し、職業系専門学科の生徒が他の職業系の専門科目や普通科の科目を学習することができる仕組み（総合選択制）を導入し、生徒の多様な学習ニーズに対応できるようにする。
- ② 普通科では、総合制高校の特色を活かし、体育、薬学、化学、ビジネス、デザインなどの生徒の興味・関心のあるテーマを設定して探究活動に取り組む。
- ③ 体育コースでは、体育に深い関心をもつ生徒が、個々の能力を最大限に発揮できるようにするため、体育の様々な種目・理論を幅広く学習するとともに、選択した種目を通して専門的な学習活動に取り組む。
体育コースに開設する競技種目は、陸上競技（男女）、サッカー（男）、テニス（男女）、野球（男）、フェンシング（男女）、カヌー（男女）、水球（男）、剣道（男女）とする。
- ④ くすり・バイオ科では、「くすりの富山」の人材育成を充実させるため、薬業やバイオに関する知識と技能・技術を習得するとともに、県内大学や企業などの先進的な学術研究に触れるなど、専門科目の学習活動に取り組む。
- ⑤ 情報デザイン科では、ビジネスの基本を身に付けたデザイナーを育成し、地域社会・企業・大学・研究機関との連携によるデザイン制作や、地域でのフィールドワークを通じた提案活動などに取り組む。
- ⑥ 特色ある部活動として、カヌー部、フェンシング部、陸上競技部、水球部、剣道部、美術部などを設置する。

3 高岡西高校と高岡高校による新高校

(1) 設置場所

新高校については、高岡高校の校舎等を活用して設置するものとする。

(2) 学校規模

新高校開設時の学校規模については、設置場所における現在の施設・設備の規模などの状況、県立高校の学校規模の状況等を総合的に勘案し、1学年7学級とする。

(3) 学科構成

学科構成については、「普通科」、「理数科学科」、「人文社会科学科」の3学科を設置し、各学科の学級数については、次のとおりとする。

普通科	理数科学科・人文社会科学科
5学級 (200)	2学級 (80)

※「理数科学科」「人文社会科学科」を合わせて「探究科学科」という。

(4) 各学科の主な教育内容

各学科の主な教育内容は次のとおりとする。

学 科	主な教育内容
普通科	国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語など、幅広い分野の普通教科に関する教育を行う。 2年次から、文系、理系のコースに分かれ、生徒の興味・関心、進路希望に応じ、必要な科目を選択する。
探究科学科 (理数科学科 人文社会科学科)	国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語など、幅広い分野の普通教科に関する教育を行うとともに、少人数のグループで理解を深めるゼミ形式の授業や、幅広い分野の中からテーマを設定して行う課題研究、大学での研修などの探究的な学習に取り組む。 1年次では、理数科学科、人文社会科学科の共通内容を学び、2年次から、生徒の興味・関心、進路希望に応じ、両学科それぞれの内容について、必要な科目を選択する。

(5) 魅力ある学校づくりのための仕組み

- ① 普通科では、探究科学科で培われた探究的な学習を推進し、生徒の興味・関心のあるテーマを設定して探究活動に取り組む。
- ② 普通科では、生徒の興味・関心を活かしながら、希望する進路を実現するために、数学総合や生物探究など、生徒のニーズに柔軟に対応できる学校設定科目を開講し、知性に根ざす豊かな人間性を培う学習活動に取り組む。
- ③ 探究科学科（理数科学科・人文社会科学科）では、学び問う力、豊かな人間性を基盤とし、科学的な見方や考え方、自分の考えをまとめて伝える力、高い学力などの育成を目指すため、探究的な学習や専門科目の学習を充実する。
- ④ 地域貢献活動への生徒の自主的な参加を推進する。
- ⑤ 特色ある部活動として、ソフトテニス部、体操部、囲碁部、かるた部、写真部、将棋部などを設置する。

4 南砺福光高校と南砺福野高校による新高校

(1) 設置場所

新高校については、南砺福野高校の校舎等を活用して設置するものとする。

(2) 学校規模

新高校開設時の学校規模については、新たな学科構成、設置場所における現在の施設・設備の規模などの状況等を総合的に勘案し、1学年7学級とする。

(3) 学科構成

学科構成については、「普通科」、「国際科」、「農業環境科」、「福祉科」の4学科を設置し、各学科の学級数については、次のとおりとする。

普通科	国際科	農業環境科	福祉科
4学級 (160)	1学級 (30)	1学級 (30)	1学級 (30)

(4) 各学科の主な教育内容

各学科の主な教育内容は次のとおりとする。

学 科	主な教育内容
普 通 科	国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語など、幅広い分野の普通教科に関する教育を行う。 2年次から、文系、理系、探究のコースに分かれ、生徒の興味・関心、進路希望に応じ、必要な科目を選択する。
国 際 科	外国語学習を柱に、国際感覚を身につけ、国際的に活躍できる人材を養成する教育を行う。 具体的には、「総合英語」「英語表現」などの専門科目で英語力を伸ばし、第2外国語として、中国語を選択できるようにする。また、海外語学研修や国際交流によって、コミュニケーション能力を高める。
農業環境科	農業に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、野菜・草花、造園土木、加工・流通など、農業に関する知識や技術の習得を目指す。
福 祉 科	福祉に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、福祉の各分野に関する知識や技術の習得を目指す。

(5) 魅力ある学校づくりのための仕組み

- ① 生徒の進路希望や興味・関心などに応じて、普通科系の生徒が他の普通科系の科目や職業系の専門科目を学習し、職業系専門学科の生徒が他の職業系の専門科目や普通科系の科目を学習することができる仕組み（総合選択制）を導入し、生徒の多様な学習ニーズに対応できるようにする。
- ② 南砺市全域を対象エリアとし、地域の課題について自主的に研究を進める「地域課題学習」や、学校外での体験学習・調査研究を行う「とやま地球学」を実施し、探究的な学習活動に取り組む。
- ③ 国際科では、外国語教育に力を入れ、海外の高校との交流や語学研修を行うとともに、英語に関する資格・検定試験の上位レベル到達や各種英語コンテストへの出場、語学力を活かした地域観光ボランティアなどに取り組む。
- ④ 農業環境科では、農業を中心とした職業人を育成するため、農業実習、農業クラブ活動、インターンシップ活動や地域社会との連携を深める共学農園を通して、幅広い実践力や問題解決能力を身につける学習活動に取り組む。
- ⑤ 福祉科では、基礎科目を習得するとともに、実習を中心に将来の介護福祉現場に対応できる実践力を身につけ、介護福祉士国家試験に合格できるようにする。
- ⑥ 特色ある部活動として、なぎなた部、ライフル射撃部、剣道部、山岳部、スキー部、写真部などを設置する。

<参考> これまでの検討経緯

県立学校整備のあり方等に関する検討委員会

計 8 回開催 (H26. 9～H28. 4)

[検討項目]

- 1 県立高校の望ましい規模や配置について
 - 2 職業科などの各学科の構成や配置について
 - 3 特色ある高校などの新しいタイプの高校について
 - 4 定時制高校のあり方について
 - 5 特別支援学校のあり方について
- [パブリックコメント [H28. 2. 23～3. 22] 71 件]

県立学校整備のあり方等に関する報告書 (平成 28 年 4 月 15 日)

総合教育会議

計 8 回開催 (H28. 6～H29. 9)

[内容]

- 1 有識者から意見聴取
有識者 18 名 (学識者 2 名、市町の首長 7 名、経済界 7 名、PTA 連合会 2 名)
- 2 有識者からいただいたご意見の論点を整理し、再編について検討・協議

第 1 回意見交換会 (県内 5 か所で開催) [H29. 7. 3～7. 10]
新川学区(218 名) 富山学区(60 名) 高岡学区(134 名)
砺波学区(304 名) 朝日町(約 120 名) ※かっこ書きは参加者数

第 2 回意見交換会 (県内 6 か所で開催) [H29. 7. 31～8. 17]
新川学区(260 名) 富山学区(75 名) 高岡学区(90 名)
砺波学区(263 名) 朝日町(約 100 名) 南砺市(440 名)

県立高校再編の基本方針 (平成 29 年 9 月 7 日)

県立高校教育振興会議

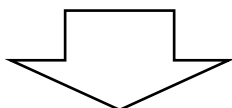
計 3 回開催 (H29. 10～H30. 1)

[内容]

- 1 関係者との意見交換
県 PTA 連合会、中学校長会の代表 8 名 (4 学区 各 1 名)
- 2 再編統合の対象校、具体的な実施時期、中高一貫教育校等について検討・協議

第 3 回意見交換会 (県内 4 か所で開催) [H29. 11. 6～11. 16]
富山学区(71 名) 高岡学区(72 名)
砺波学区(101 名) 新川学区(199 名)

県立高校の再編統合の対象校などについて(報告) (平成 30 年 1 月 19 日)



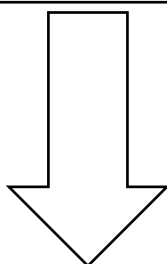
総合教育会議

平成 30 年 2 月 5 日開催

[検討項目]

- 1 再編統合の対象校について
- 2 具体的な実施時期について
- 3 中高一貫教育校について

県立高校再編の実施方針（平成 30 年 2 月 5 日）



地域説明会 [H30. 2. 13~3. 26]

同窓会、P T A、自治振興会など 6 回 (66 名)

県教委内に設置したプロジェクトチームで、県立高校再編統合実施計画策定について検討 [H30. 2~12]

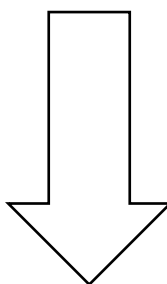
総合教育会議

平成 30 年 7 月 9 日開催

[検討項目]

- 1 再編統合後の新高校の学校規模、学科構成、主な教育内容について
- 2 再編統合後の新高校の魅力ある学校づくりのための仕組みについて
- 3 再編統合校の教育環境の整備等について

県立高校再編の実施計画（素案）（平成 30 年 7 月 9 日）



パブリックコメント [H30. 7. 13~8. 31] 19 件

地域説明会 [H30. 7. 29~8. 23]

同窓会、P T A、自治振興会など 9 回 (58 名)

中学校関係者 [H30. 7. 25~10. 5]

中学校長会、県 P T A 連合会地区連絡協議会など 9 回 (245 名)

総合教育会議

平成 30 年 12 月 11 日開催

[内容]

- 1 再編統合後の新高校の学校規模、学科構成、主な教育内容について
- 2 再編統合後の新高校の魅力ある学校づくりのための仕組みについて
- 3 再編統合校の教育環境の整備等について

県立高校再編の実施計画（平成 30 年 12 月 11 日）